

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	看護管理		対象学生・時期	3年生・前後期	
			講義時間（単位）	15 時間（1）	
講師名	看護部長				
科目目標	1. 看護管理の目的と機能が理解できる。 2. 組織の一員としての看護師の役割や行動が理解できる。 3. リーダーシップとメンバーシップを理解し、マネジメントの基礎が理解できる。 4. 看護を経営的・経済的側面から考えることができる。				
回数	主題		主な学習内容	授業形態	担当
1	1. 人々の生活と看護		1. 看護の役割	講義	
2			2. 看護活動の場 施設から地域へ	講義	
3	2. 看護管理過程		1. 組織と看護マネジメント 2. 看護管理 3. 看護師の仕事とその管理	講義	
4	3. 看護の質保証と看護管理		1. 看護サービスの組織化 2. ケアの改革 3. 患者の権利擁護と看護倫理 4. 安全管理体制 5. 看護実践の評価と改善 6. 研究活動と実践への応用 7. 病院機能評価	講義	
5	4. 看護管理のスキル		1. リーダーシップとメンバーシップ 2. アサーティブコミュニケーション 3. コーチング	講義	
6	5. 看護と経営		1. 経営とは 2. 看護師に求められる経済的な視点	講義	
7	6. 看護職と生涯学習		1. 看護専門職とキャリア開発 2. 看護師の育成 1) クリニカルリーダー 2) プリセプターシップ 3. 看護に関する法律 4. 看護政策と行政	講義	
7.5	単位認定試験				
評価方法	筆記試験				
使用テキスト	系統看護学講座 看護管理 医学書院				
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	テキストを用いて、看護のしくみ、チーム・組織、システムについて熟読しておくこと		

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	医療安全	対象学生・時期	3 年生・前期		
		講義時間（単位）	30 時間（1）		
講師名	医療安全係長				
科目目標	1. 医療における安全管理の必要性を理解する 2. 安全管理の方法を理解する 3. 感染予防対策および標準予防策を理解する				
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当	
1	医療安全と看護	1. 医療安全の意味と重要性 2. 医療安全に関わる動向 3. 医療安全の対象 4. 医療安全に関する基礎知識	講義		
2	安全管理とは	1. 医療事故と看護業務 2. 看護事故の構造 1) システム 2) プロセス 3. リスクマネジメント			
3	事故防止対策	1. 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 2. 注射業務と事故防止 3. 注射業務に用いる機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ関連）での事故防止 4. 輸血業務と事故防止			
4		5. 内服与薬業務と事故防止 6. 経管栄養（注入）業務と事故防止 7. チューブ管理と事故防止			
5	療養上の世話の事故防止	1. 療養上の世話における 2 群の事故のとりえ方と防止（総論） 2. 転倒・転落事故防止			
6		3. 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 4. 異食事故防止 5. 入浴中の事故防止			
7	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	1. 業務領域をこえて共通する患者間違い 2. 間違いを誘発する多重課題，タイムプレッシャーと業務途中の中断 3. 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義 演習		
8	医療安全とコミュニケーション	1. 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 2. 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 3. 事故の未然防止上重要なコミュニケーション	講義		
9	組織的な安全管理体制への取り組み	1. 組織としての医療安全対策 2. システムとしての事故防止の具体例 3. 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応 4. 院内暴力	講義 演習		
10	医療事故分析	1. 事故分析の方法 2. 原因・誘因・事故後の対応 3. 間違い防止			

11	チームで取り組む安全文化の醸成	1. チーム医療の発展と課題 2. チーム STEPPS		
12	防災対策	1. 災害時初動体制 2. 災害対応マニュアル	講義	
13	感染管理 (感染予防対策)	1. 感染の危険を伴う病原体 2. 感染に対する標準予防策 3. CDC ガイドライン	講義	
14		4. 医療機器の使用に関わるもの 5. 医薬品への曝露と対応		
15	単位認定試験 まとめ			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	系統看護学講座 医療安全 医学書院			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストを用いて事前に主題の箇所を熟読しておく	

科目名	国際・災害看護	対象学生・時期	3年生・後期	
		講義時間（単位）	30 時間（1）	
講師名				
科目目標	1. 国際看護における看護の役割を理解する 2. 看護職としての諸外国との協力のあり方を理解する 3. 国際社会における医療福祉の現状を理解する 4. 災害の定義および災害医療の概要を理解する 5. 災害サイクルにおける保健医療ニーズや活動の場に応じた看護を理解する 6. 我が国における災害対策と災害救助活動を通して、国際協力の必要性を理解する。			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	国際看護とは	1. 世界の健康問題の現状 2. 国際看護の概念・目的 3. 国際社会における看護の対象 4. グローバルヘルス	講義	
2	国際協力のしくみ	1. 国際救援・保健医療協力分野に携わる国際機関 2. 国際救援の調整 3. 開発協力	講義	
3	異文化を考慮した看護	1. 多様な文化と看護 2. 在日外国人への看護活動	講義	
4	国際看護活動の現状	1. 開発協力と看護 1) 開発途上国と看護 2. 国際救援と看護 1) 災害と難民・国内避難民の現状 2) 国際救援活動の基本理念	講義	
5	国際看護活動の現状	1. 国際救援における看護の展開	講義 演習	
6		2. 国際救援における看護の実際	講義 演習	
7	災害医療の基本	1. 災害とは 2. 災害看護の歩み 3. 求められる災害看護学 4. 災害医療・看護の基礎知識	講義	
	一次救急処置	5. BLS の実際	演習	
8	災害医療の特徴	1. 災害医療の特徴 2. CSCATTT 3. NBC 災害 4.わが国の災害対策の実際	講義	
9		5. 災害と情報 6. 災害対応に関わる職種間・組織間連携		
10	災害看護の役割	1. 災害看護の役割、対象者 2. 災害看護の特徴と看護活動 1) 災害サイクル別の看護活動	講義 演習	
11	災害サイクルに応じた看護活動	1. 災害サイクルに応じた看護活動 1) 急性期～亜急性期	講義	
12		2) トリアージ		
13		3) 慢性期～静穏期		
		2. 災害とこころのケア		
14	トリアージの実際	1. S T A R T法トリアージ 2. 搬送について	演習	

15	単位認定試験 まとめ			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院			
自己学習 時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習し、社会及び世界情勢に関心を持って講義に臨む。演習課題に取り組む。	

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	臨床看護技術演習		対象学生・時期	3年生・後期		
			講義時間（単位）	30 時間（1 単位）		
講師名						
科目目標	1. 複合的な条件の事例を予測性・個別性をもってアセスメントし、実践できる能力を習得する 2. 卒業時の技術到達度をふまえて、自己の看護技術の達成状況と課題を明確にする					
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当	
1	複合事例の症状のアセスメント アセスメントに基づく看護の実践と複合した治療処置の必要な患者への援助の実際	1. 臨床推論の展開 1) 看護師に求められる実践能力 2) 看護の質の保証 3) クリティカルシンキング 4) 臨床判断モデル 2. 優先度の決定 1) 複数患者それぞれに必要な看護 2) 複数患者それぞれの優先順位 3) 患者間における優先順位と理由 4) 複数患者の行動計画 5) 報告・連絡・相談		講義		
2	複数患者受け持ち時の援助の優先度の決定とタイムマネジメント	3. 受け持ち患者 2 名の事例検討				
3	看護チームの一員としてのメンバーシップ	4. 多重課題への対応 1) 取るべき行動と優先順位・その理由 2) 突発事項が起こった場合の対応		講義 演習		
4		5. 受け持ち患者 3 名の事例検討 突発事項がおこった場合の対応				
5		6. 複合する事例検討① 1) 突発事項が起こった場合の対応 2) 多重課題の対応 (受け持ち患者 3 名～4 名)		演習		
6		7. 複合する事例検討② 1) 突発事項が起こった場合の対応 2) 夜間の優先順位と多重課題の対応 (受け持ち患者 3 名～4 名)				
7		8. 複合する事例検討③ 1) 病室における急変時の救急処置 2) 学生が経験の少ない看護技術の複合 (受け持ち患者 3 名～4 名)				
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15	単位認定試験 まとめ					
評価方法	筆記試験・課題レポート等					
使用テキスト	基礎看護学で使用したもの 医学書院他 必要なものは各自で持参する					
備考	演習②はシミュレーション学習とする					
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	事前学習・事後学習を行う。			